「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０２１年７月　第140号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

学生が初めて企画、立案
オープンキャンパス 経験を次回に生かす

6月26日のオープンキャンパスは企画から開催まで全て学生主体で行いました。

この試みは今回が初めてで、書類作成などの事務作業から企画案・タイムテーブルの作成まで全て学生スタッフが担当しました。楽しいアイデアを発案しただけではなく、パソコンを使用した事務作業も学生には良い経験になったと思います。私は現在他の学生団体にも加入していますが、そこで習得したデジタル書類の作成及びその管理方法、その他イベントの運営に必要なアプリに関する知識を今回の活動に活かせたことは私にとっても良かったです。苦労したことを教えるときりがありませんが、やはり初めての試みで資料がない状態からアイデアを出す作業は大変でした。この経験から今後の参考のため、後輩に資料を残そうとメンバーで話し合いました。また今回はコロナ禍での開催を前提に作成したため、これから先同様の事態が起きた際にも参考にしていただけると思います。

初の学生主体のオープンキャンパスは、準備段階の苦労や、当日の予想外のトラブルもあり、想像以上に忙しく感じました。暑い中十分に休憩が取れない状態でも、笑顔を絶やさずテキパキと受付や道案内をしてくれたスタッフの皆さんには、頭が上がりません。本当にありがとうございました。今回の内容を改善し、次回はより良いオープンキャンパスを開催したいです。

（国文学科2年／矢代晴子）

学問の奥深さと楽しさを知る
特待生に選ばれて

私は今、国文学科で民俗学や上代文学、特に昔話や神話について学んでいます。大学に入って最も驚いたことは、民俗学のように今まで小中高校では「勉強」として扱われていなかった範囲も大学では学問として受容されているという点です。

例えば、私は動物と人間が結婚する昔話について研究をしていますが、そのような話の代表格である鶴の恩返しはなぜハッピーエンドにならないのか？という疑問も。些細なよ

うに思えますが、大学では立派な研究テーマとなります。

私は大学で講義を受ける中で、そのような些細な疑問が納得に変わる瞬間がとても好きです。また、昨年度に受講した伝承文学概説という講義では、すべての文化には基層となる文化があり、目に見える部分はまさに氷山の一角なのだということを学習しました。日常生活に対しても、多角的な視点を持つきっかけになったと思います。

私は学びというものが、国語や数学、理科、社会といった教科だけではないということをこの短大に入学して改めて実感しました。私はこの驚きを、子どもたちに伝えたいと思うようになりました。そのために、まずは短大の卒業と國學院大學への編入を目標に日々の学習をしっかりと行い、今後社会人になった時は、教育支援に関係する仕事に就きたいと考えています。

（国文学科2年／相田茉子）

コロナ禍の学生にお米や生活用品
温かい支援に感謝

7月21日、日頃から学生を支えていただいている地域の方々（滝川市・商工会議所をはじめとする協力会・家主連絡協議会）より、学生を応援しようと「滝川産米一人5㌔」「エコバッグ」を全学生450名に贈呈していただきました。また、学生会も「松尾ジンギスカンセット」「カップ麺やレトルト食品のセット」「洗剤、トイレットペーパー、指定ゴミ袋のセット」から希望のセットを配布する支援事業を共同で実施しました。

学生たちからは「滝川産のお米を食べるのが楽しみです」「お米を食べて元気を出し、暑さを乗り切ります！」と感謝と喜びの声があがりました。学生の不安解消や心労の軽減につながる事業を地域の方々と一緒に進めることができました。

皆様方の支えを胸に滝川市での2年間の学生生活に夢を持つことができます。皆様方のあたたかい応援に心から感謝申し上げます。

▼前田康吉滝川市長　新型コロナウイルス感染症の影響により、この間、学校生活では臨時休講やオンライン授業で仲間との学びあいの機会が制限されたり、アルバイトの自粛により経済面でも厳しい環境のなか頑張られていることと思います。ぜひ、おいしい滝川産米を食べて元気に学生生活を過ごしてください。

今後も新型コロナウイルスに「感染しない・させない」取り組みを継続して、ともにこの難局を乗り越えていきましょう。

▼明円直志國學院大學北海道短期大学部協力会会長　勉強はもちろん、友人との付き合いやアルバイトなど、本来楽しい学生生活が新型コロナウイルスのせいで大きく制約を受けていることに、協力会としても心を痛めています。私たちは皆さんを応援していきます。負けずに頑張りましょう。

▼長野英己家主連絡協議会会長　コロナ禍でも楽しい学生生活を応援したい家主会では、焼肉イベントなど、楽しい交流事業も残念ながら中止となり、昨年の朝から晩までのオンライン授業、友達をつくる機会もなく、巣籠もり状態だった皆さんをすぐ側で見ていて、とてもかわいそうでした。さあ、一生懸命食べて元気を出しましょう。

▼坂本雄大学生会長、幼児・児童教育学科児教コース2年　ありす祭の中止を受け、学内の活気がなくなってしまいました。そこで私たち学生会は少しでも学生を元気づけたい思いで、全学生へ支援物資を配布することを決めました。一人でも多くの学生に気持ち的にも経済的にも手助けできたらと思い決断しました。

初めてのカヌー体験で絆と結束
教師の使命感も学ぶ
児童教育コース

私たち児童教育コースは、7月4日の「総合的な学習の時間」にラウネ川のほとりにある滝川市B&G海洋センターでカヌー等の体験学習をしました。

この体験では、自然を楽しむだけでなく、水辺の体験学習で児童を引率する際の安全指導上の留意点について職員の方々から学ぶとともに、その指導法についての理解を深めることができました。

最初にカヌーに乗る際の注意事項の説明を受けた後、まずペアカヌーに乗船しました。2人で息を合わせて漕ぐのは思っていたよりも難しくて苦戦しましたが、ペアの仲間とコミュニケーションを取りながら協力して漕ぐことができ、楽しい時間を過ごすことができました。

次にグループに分かれてローボートに乗りました。それぞれのローボートの船尾に座る艇長の掛け声に合わせてみんなで一生懸命に漕ぎました。協力して活動を行ったことでボートに乗る前よりも私たちの団結力は強まったと思います。

今回の体験では川に落水することはありませんでしたが、職員の方は「体験学習の事故は全国で毎年起きている」と話していたので、自然の中で活動する際には必ず危険があるということを肝に銘じ、教師として命を預かっているという意識を持って指導しなければいけないと思いました。そして、教師としてカヌー等体験のような豊かな自然を生かした体験学習や地域と連携した活動を行うことで、児童の豊かな心を育む指導に努めたいと思います。学んだことを生かしてこれからも頑張ります。

（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／谷水里咲）

新任職員紹介

廣富創太さん

須藤美也子さん

こんにちは。今年度より國學院大學北海道短期大学部学生支援課に配属となりました廣富創太と申します。平成29年に國學院大學経済学部経営学科へ入学し、今年3月に卒業しました。出身は旭川市近郊の当麻町という町です。大学を卒業してから故郷の北海道に帰ることができ大変嬉しく思います。

私は大学4年間、体育会ソフトテニス部に所属しておりました。今でも勤務終了後や休日を使って活動しています。もし私とソフトテニスをしていただけるという方は、お声掛けください。コートでお待ちしております。

短大での勤務、滝川市での生活等まだまだ慣れないことばかりではございますが、早く一人前の社会人になれるよう精進して参ります。学生の皆様には、北海道を目いっぱい満喫してもらいながら、各々の進路実現に向けて充実した2年間を送っていただけるようサポートに努めたいと思います。宜しくお願いします。（学生支援課／廣富創太）

◇　◇

4月よりご縁があり、健康相談員をさせていただいております。看護学校をはるか前に卒業し、看護師としてのキャリアを重ねてきました。学生とどのように向き合ったらよいのか、看護経験が役に立つのか不安がありましたが、日々、学生の笑顔や行動力、真摯に学ぶ姿に励まされ、楽しく勤務しております。

生活環境の変化、慣れない一人暮らし、対人関係、授業等々、不自由な思いやストレスを抱えている学生も多いと感じます。特に昨年来のコロナ禍で行動が制限される場面も多くあり、新しい日常と感染症との折り合いをつけながらの学生生活は大変なものがあると思います。どんな小さなことでも一人で抱え込まないで、気軽に健康相談室のドアをノックしてください。共に考えていきたいと思います。

健康相談室が、「学生が健康な学生生活を送り、将来も健康であることができれば」ため、少しでもお手伝いができればと思います。どうぞよろしくお願いします。（健康相談室／須藤美也子）

本年度は９人に奨学金支給
特待生・奨学生制度

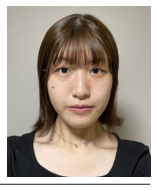
特待生・奨学生制度は、健康にして学業人物ともに最優秀・優秀な人物を顕彰することを目的とし、それぞれ奨学金が支給される制度です。6月24日に本学で証書授与式が行われ、受賞者は学長より表彰状及び奨学金が支給されました。

受賞者は次の9名です。

◇特待生▽国文学科　相田茉子▽総合教養学科　原知穂▽児童・幼児教育学科　岡村昂胤

◇奨学生▽国文学科　山本咲耶、柿崎光皇▽総合教養学科　村上玲、生田雅士▽幼児・児童教育学科　高瀬優衣、中原翔太郎

生徒のあいさつや礼儀に驚き
雨竜高等養護で介護体験



6月28、29日、雨竜高等養護学校で私たち総合教養学科の教職課程を履修している5名は、介護等体験をさせていただきました。介護等体験は教員免許を取得するための必修科目であり、2年生で経験する教育実習とともに大切な機会となっています。

2日間を通して私たち自身が一番変わったと感じていることは、養護学校に対する認識です。これまで私は養護学校を訪問する機会がなく、通学する生徒はどのような様子なのかと疑問に思っていました。しかし、1日目でその疑問は解決しました。養護学校の生徒は通常の高校生と同様、勉強に真剣に取り組み、全力で運動をしていました。特に、私たちと一歳しか変わらない生徒の皆さんと自分では、基本的な挨拶や礼儀のレベルが全く違い、自分がとても恥ずかしくなるほどでしたし、先生方の指導は生徒自身が自立して行動できるよう、必要最低限の対応をしていたことも大変勉強になりました。

この体験は、来年行う教育実習前のとても貴重な経験となりました。介護等体験を受け入れていただいた雨竜高等養護学校の生徒の皆さん、先生方に心からお礼申し上げます。

（総合教養学科1年／野波朝香）

コロナを吹き飛ばす夜空の大輪
短大部で打ち上げ花火

新型コロナウイルスの感染拡大により、6月に予定されていた「ありす祭」が昨年に引き続き中止になり、学生や地域の方々との交流の場が減ってしまいました。短大でも、一時的な休講や授業がオンラインに切り替わる影響が出ました。また、部活動やアルバイトなど様々な行動に制約がかかり、一カ月ほど学生生活の楽しみが実感しにくい生活が続きました。

そのような中で、7月1日に國學院大學北海道短期大学部のグラウンドで花火を打ち上げました。学生や地域の皆様に家からでも楽しむことができるイベントを提供し、コロナ禍での不安や疲労を払拭するきっかけになればと考え、今年の開催を決めました。

当日は、警備員として打ち上げ場所に近いところで花火を見ることができ、その迫力と音の大きさに気持ちが高ぶりました。観客として来た友人たちにも好評で「すごかった」や「綺麗だった」という声が多くありました。

来年は自分たちが主体となって企画・運営に携わるので、新型コロナウイルスの感染拡大が終息に向かったならば、新1年生とともに素晴らしいイベントを開催し、短大と滝川市を盛り上げていきたいです。（国文学科1年／花井和隆）